

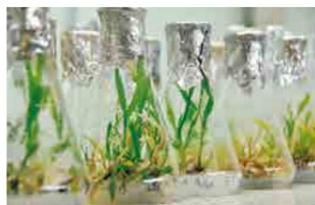


吉田島総合高校の ユニークな調査隊

企画政策課
☎ 84-0312



案内してくれた井上友花さん(2年・円中)(左)、
竹内愛美さん(2年)(右)



ずらりと並んだ苗

校内に入って、まず目に入ってくるのが、「開成町で一番高い木」と言われている「メタセコイヤ」。
この木がある中庭を抜けた所に実習棟があり、この中に研究室があります。ここでは日々様々な研究が行われています。例えば、バイオテクノロジーを植物の生育に応用する研究を行っています。

【新たな可能性が生まれる研究室】

吉田島総合高校は1907年(明治40年)、今から109年も前に、旧吉田島村に「足柄上郡農業補習学校」として創立されました。
以来、農業及び農業関連産業を中心に数多くの人材を輩出してきました。現在、吉田島総合高校では、男子265名、女子316名の生徒が学んでいます。学校の中はどのような感じなのか、何をやっているのか？調査隊が潜入してきました。(もちろん許可をいただいております！)

【109年続く伝統ある高校】

吉田島総合高校は1907年(明治40年)、今から109年も前に、旧吉田島村に「足柄上郡農業補習学校」として創立されました。

以来、農業及び農業関連産業を中心に数多くの人材を輩出してきました。

現在、吉田島総合高校では、男子265名、女子316名の生徒が学んでいます。

学校の中はどのような感じなのか、何をやっているのか？調査隊が潜入してきました。(もちろん許可をいただいております！)

なぜか男子の多い果樹部で青春を果実の栽培に懸ける彼らは、収穫間近のミカンのように笑顔いっぱい、農業の可能性を熱く語ってくれました。昭和30年代に建てられた木造の畜産



ていねいに育てられている「せとか」

今度は外に出て、広大な農場へ。夏には蛍が乱舞する用水路を抜けると、そこには温室がありました。おそろいの赤いジャンパーを着た農業クラブ果樹部の1年生男子4人に「せとか」という高級ミカン(何と別名「柑橘の大トロ」)の栽培の説明をしていただきました。

【広大な農場】

特派員も入念に手を洗い、チリヤホコリを払い、いざ、入室。
無菌状態の部屋に、培養された植物が入った試験管がずらりと並ぶ姿にビックリです。中には開成町特産の弥一芋の苗もあり、人工的に作られたいくつかの環境で生育研究が行われていました。
白衣に着替えたお二人の説明の中に時折混じる専門用語に、四苦八苦の特派員でした。



ビニールハウス横のペレット



歴史を感じる畜産小屋

小屋、矢倉沢にある学校演習林の間伐材から作られた「ペレット(木を圧縮した固形燃料)」を使った温室の温度管理用の最新ヒーターなど、新旧が入り混じった独特な雰囲気を持った吉田島総合高校。
そこには真剣に農業を学ぶため、はっきりとした目的意識を持った高校生の皆さんがいました。

取材を終えて

吉田島総合高校は、来年度から名称が「吉田島高校」となり、農業に関する学科と家庭に関する学科を併設した専門学科高校としてスタートすることが決まっています。

今回出会った女子高生2人と男子高生4人をはじめとする「吉高」の生徒たちが、地域の特産品の可能性を広げ、地域の活性化につながる新たな産業の創出に関わっていく人材になってほしい、いや、きっとなっていくんだなと思いました。

まちづくり情報特派員 石塚 敦

このコーナーでは、町内の気になるあの場所・あの人をまちづくり情報特派員が取材します。気になる情報をお寄せください！



宮上 透さん

収穫できるものを生産しています。同じものを生産しても私たちが太刀打ちできません。でもオクラやキュウリ、トマトなどの手作業で収穫するしかない野菜なら大規模生産地とも勝負できるのではないのでしょうか。

辻 流通先も大規模生産地と小規模農家では異なりますね。

宮上 神奈川県のカロリーベースでの食料自給率はわずか2%です。消費地に近いという利点を生かして、単価の高いものを栽培し出荷するようにしています。また、大規模生産地にはない消費者との距離の近さを生かせば鮮度で勝負できます。

田中 都市部に近いことから、農業体験を受け入れていきます。ニンジン



遠藤 標野さん

の掘り取り体験では、収穫した瞬間の感動が伝わってきます。体験した方が感動して帰ってくるとうれし

いんです。
宮上 農業や野菜について知ってもらおうという意味では、農業体験もいいですね。
辻 南足柄市と箱根町をつなぐ道路が完成したら、開成町の畑で農業体験をして、泥んこになって、箱根の温泉に入ってもらうことなども考えられます。瀬戸屋敷を観光農園のステーションにして、ツアーなども呼び込めれば、さらに農業体験の可能性は広がりますね。

「農業を子どもたちの世代につなげていきたい。皆さんの今後の展望(目標)を教えてください。」

辻 大きな目標を掲げるのではなく、時代の流れにあわせながらも、自分らしい農業を続けていくことが大事だと思っています。畑で一生を終えることが目標です。長く続けていく中で、気付いたら達成感が得られるのかなと思います。

宮上 農業経営者として、力を付けていきたいです。野菜を栽培するだけではなく、営業や経理、宣伝などもしっかりできるようにしていきたいです。

遠藤 プロの兼業農家を目指して



「開成町産の野菜を食べよう！」

開成町産の野菜は、町内スーパーや、朝市でお買い求めいただけます。

います。仕事も農業もそれぞれ全力で取り組みたいです。また、開成町で生産された新鮮な野菜を、いただきたいと思っています。新鮮な方がおいしいに決まっていますから！
田中 自分のことだけで終わらずに、後輩を育てていければと思います。開成町で生産された野菜を消費者が選べるのが大切だと思いますし、そういった環境を子ども世代につなげていきたいと思っています。
辻 これからも皆で切磋琢磨しながら、協力して農業をやっていきたいですね。そして町の農業を盛り上げていきたいです。